

### 第3回 知識の重要性

最近、入試改革等の議論において「知識偏重型」から「思考力重視型」へのシフトということが盛んに言われています。

確かに、知識が多ければ良いというわけではありません。しかも今は特に知識がなくてもネット等で簡単に調べることができます。

一方、考えることが重要だということに異を唱える人はいないと思います。皆さんも幼少のころから学校でもよく言われてきたでしょう。

しかし、ここで注意していただきたいのは知識のないところでいくら考えてみても答えは出ない、もしくは的外れな答えしか出てこないということです。

このところ読解力が重要だということをよく耳にしますが、基本的な語彙力がなければ文章の意味も分からず読解のしようがありません。英語でも基本的な単語や文法の知識がなければ厳しいでしょう。また、ディスカッションをするにしても知識の裏付けもなくただ言いたいことを言い合うだけでは薄っぺらな内容になってしまいます。

したがって、まずやらなければならないことは基本的な知識の修得です。考えるというのは何もないところから何かを生み出すことではなく、すでに有している知識を駆使して新しい何かを創造する営みです。知識が充実すれば理解が進み、理解が進めば知識の幅もさらに広がっていきます。

私は最近の思考力重視という流れに対して非常に強い危機感を抱いています。基本的な知識が不十分なのに考えることなど到底できないからです。

ただ、知識を修得するとなるとどうしても「暗記」という言葉が頭をよぎると思います。暗記というところか苦行を強いるようなマイナスのイメージが強いかもかもしれません。しかし、どんな分野でも勉強の初期の段階では暗記は必要です。もちろんやみくもに何でもかんでも暗記すればよいというわけではありませんが、基本的な事項については考える前提として積極的に暗記を進めていただきたいと思います。

知識というのは言ってみれば人生を生きて抜いていくための武器です。どんなに戦法に長けていても武器を持っていなければまず勝つことはできません。

学生の皆さんには、吸収力のある学生時代に多くの知識を修得し、真に考えることのできる社会人を目指していただきたいと思います。